



## 第10回世界遺産白川郷五箇山三村交流会in相倉！！

去る12月14日、五箇山相倉集落において見出しの会を開催しました。今回はテーマを『世界遺産で暮らす豊かさを未来へ～若い世代からの提言～』とし、次代を担う若い方々に意見を発信していただく場をメインに設定しました。各地区から若い世代が発表する中、荻町を代表して総務部長の今藤建二氏、合掌環境部長の野谷信二氏の2人が発表しました。また当日にむけて、2人が中心となり荻町の若い世代を集めて『若者と語る会』を開催し、みんなの想いを参考にしながら当日の発表準備を進めてきました。そして当日は多くの若い世代を含めた15人の方々が、白川より参加くださいました。以下に、今藤氏・野谷氏の発表の一部を掲載いたします。



### ①守る会の概要について……………（省略）

②保存の三原則について(今藤)……………今年度重要課題の1つとして保存の三原則について話し合いを進めてきました。保存の3原則とは、住民憲章に定められている事項で、合掌家屋をはじめとする地域内資源を「売らない・貸さない・こわさない」という約束です。これを先人先輩方が守ってきたからこそ、合掌造りや農山村の景観が残り、世界遺産へとつながりました。そして、荻町に若者がどんどん帰ってくる現象も生まれました。しかしそれも落ち着き、現在は緩やかな過疎化の集落となっています。また近い将来を考えると、過疎化がもっと進む事態や、若者が働く場所・働きたいと思う場所が村内に限られている問題、家を継ぐ次の世代が帰ってこない家、高齢化により農業ができない家、空き家になることが予測される家、といった問題が起こりうるということがわかってきました。日本全体の人口増が頭打ちとなり、少子高齢化が進んでいく訳ですから、荻町集落も当然と言えば当然です。また、全国各地で建物の老朽化と空き家の放置が大きな問題となっていることや全国各地の伝建地区からも空き家問題や後継者の悩みを聞きます。荻町は「売らない・貸さない・こわさない」で、外部資本を排除し住民の結束で地域を守ってきました。しかし、これらの現状を考えると、このままでは守り切れないという部分も出てきました。そこで、この三原則を無くすという意味ではなく、しっかりみんなで話し合い考えることで、三原則のもつ意味や精神を認識しなおすとともに、例外的な措置を共通理解した上で、三原則を継承していく取り組みが必要であると考えました。今年1年かけて話し合った内容は、12月の大寄合の決議をもって成立の運びとなります。去年の三村交流会で、妻籠宿の小林俊彦氏のお話を拝聴しました。小林さんは白川に「売らない・貸さない・こわさない」を教授くださった、町並保全のカリスマ的存在です。その方のお話で次の言葉が印象に残っています。「村は住民の絆で成り立っている。絆や村の決まりを理解しないでお金儲けのみが目的で人が入ると大きなトラブルにつながる。その選別を誤らないようにしないといけない。」「何事も住民が共に真剣に話し合い議論を尽くすことが大事である。」その言葉を念頭に、この一年間取り組みを進めてきました。先人からつないできたよさを継承し、若者がそのよさを理解し、加えて時代の変化に対応したあり方を工夫し、未来へと世界遺産をつないでいきたいと感じています。また、行政では、空き家問題への対応、過疎化対策や若者の就職・産業の促進に懸命に取り組んでくださっています。行政と住民が近い関係にあるのが白川のよさでもあります。地元の農産物を地元で加工し販売まで一括して行う6次産業化や、白川ならではの特産品開発と白川郷ブランド化等、若者の発想も取り入れていただきながら、私も観光業を営む一員として、官民一体となった取り組みに努力したいと考えています。

③結の継承について(野谷).....私の職業は葺き師で12年になります。なりたと思ったのは、結での屋根葺きに参加して、その楽しさとやりがいのある仕事にあこがれをもったからです。みんなと協力して冗談をかわしながら働いて流す汗、できあがった重厚な屋根を見上げたときの爽快感、作業後に屋根の完成を祝いみんなで飲み交わすお酒の味は格別です。それを職業にできれば本当に楽しいと感じ現在にいたっています。しかし、始めた当初は本当に大変でした。同じ作業の繰り返しと重労働に肉体も悲鳴をあげました。でも、たくさん苦勞をした分、完成したときの達成感は何ものにもかえられません。家主さんから「りっぱな屋根に仕上げてくださいありがとうございます。」の一言に疲れもふっとびます。自分が関わった屋根が、1棟2棟と増えていく度に、この集落の合掌を守り美しい景観に貢献できているのだと、自分の仕事にやりがいと誇りを感じています。屋根葺きの会社設立時、会社ができると結がなくなってしまうのではと言われたことがありました。しかし、私はそうは考えていません。職業としての葺き師が屋根葺き技術の高いレベルを維持するとともに、結での屋根葺きに参加する若者に技術を指導し広めるリーダーとしての役割を担えると考えているからです。これは社長も同じ考えで、結での屋根葺きを歓迎しています。10月末に結での屋根葺きを行いました。作業後の宴席で先輩の矢野さんが「屋根を葺く最前列のメンバーがかわってきた。若返った。これはすごくいいことだ。」と話してくださいました。葺き師として自分の役割が果たしていると強く感じたうれしい一言でした。若者と語る会の中でも、多くの人が「結の屋根葺きをやりたい」「やりがいがある」「白川の男として屋根葺き技術を身につけたい」と語ってくれました。来年は上手家、再来年は旧松井家の屋根葺きが結で行われる予定です。守る会としても、年に1棟は結の屋根葺きができるよう呼びかけていきたいと想います。ご静聴ありがとうございました。

相倉代表は、「世界遺産に住まんまい家プロジェクト」で県外からの移住者を公募した実践等について発表。菅沼代表は、小さな集落の難しさや遺産継承にむけて行政が積極的に関わる方策として平、上平行政センターに世界遺産課の専門職を配置する案等を熱く語ってくださいました。各地区ごとに悩みの違いはありますが、少子高齢化や過疎化・後継者対策は、共通した課題になりつつあると感じました。荻町を代表し素晴らしい発表をしてくださりましたお二方と次代を担う若者の積極的な参加に敬意と感謝を申し上げます。次回は、五箇山菅沼地区開催の予定です。 [文責:和田]

### ＝ 世界遺産20周年記念事業の予定 ＝

- ◎6月・・・キックオフ事業『獅子舞の競演』(白川八幡神社にて)
- ◎10月下旬～11月上旬・・・茅刈り及び茅ニューづくり(住民参加イベント)
- ◎11月下旬・・・20周年記念式典・シンポジウム(行政主催) (※その他の事業を含め、決まり次第お知らせいたします。)

### ＝ 1月の活動報告 ＝

- 1月 1日 元旦・春駒
- 1月 6日 消防出初め式・TV局取材
- 1月 14日 荻町区新年会・ねそ1月号配付
- 1月 17日 荻町ライトアップ初日(7回開催予定)
- 1月 21日 総務省世界遺産の保存管理に関する実態調査(会長)
- 1月 22日 1月定例会及び新年会
- 1月 26日 文化財防火デー火災訓練(旧寺口家出火を想定)

※3月の定例会は、10日(火)を予定しています。

#### ＝ 区民の皆様へ ＝

建物や土地などの現状を変更する場合は許可が必要です。必ず現状変更申請をして下さい。申請書は守る会定例会の2週間前までに、各組委員に内容を説明の上、委員又は財団に提出して下さい。このことは、遺産の保全と未来への継承のためとても重要なことです。皆様のご理解ご協力をお願いします。

#### 守る会活動スローガン ～守る・くらす・つなぐ～

- ①守る：住民憲章を基盤とした、世界遺産である合掌家屋と農山村の景観保全
- ②くらす：結の精神が根ざした共同体と、景観に調和した豊かな住民生活の向上
- ③つなぐ：故郷から学び、国内外の交流から学び、未来への継承者を育成

☆1月の協議事項(現状変更申請に関わって)☆

1月22日審議分

\*\*\*\*\* 桜の木の伐採と柿の木の植樹

☆2月の協議事項(現状変更申請に関わって)☆

2月10日の審議は0件でした。